

(参考)

西郷南海子さん、松岡幹雄さんを招いて大阪アピールが 「深化する市民と野党の共闘」つどいを開催 46人が参加

野党統一候補の実現をめざす大阪アピール（梅田章二氏、山元一英氏、富田宏治氏らの呼びかけ）が、第3回目となる集い「深化する市民と野党の共闘 ～京都知事選挙と豊中府議補欠選挙からつかむつどい」を開催。京都知事選、豊中府議補選のたたかいをテーマに、深化する「市民連合」運動、近畿では地方選初めての市民型選挙を学び、今後に生かそうと開催されました。日曜日にもかかわらず46名が参加、両氏への質問や意見など活発に交差しました。



「つなぐ京都」で活躍した西郷南海子さん。京都知事選挙を闘って、「市民派を目に見えるようにしようとタウンミーティングから要求の出し合いをし、政策を積み上げていった。今までの知事選挙は『民主府政の会』が選挙をし頑張ってますが、新しい人たちが新たにかかわるようにと『つなぐ京都』とし、市民が集まれる枠組みにした。市民が選挙に参加させてもらうというのはおかしい、お客さんではない、自分がつくるという意識を持たなければいけない」と発言。質疑に応えながら、「白票や棄権が多かった、無関心者は関心が無い！のでなく、どう関心を持ってもらうかが大事、府予算でも1%をこう使ったら暮らしはこう変わるなどの打ち出しが必要、言葉にこだわる工夫を」また、「自力をつけることが必要」（松岡氏も）と。

豊中市長選挙、府議補欠選挙を「市民連合・豊中」有志としてたたかった松岡幹雄さんはこう語った。「いっとくさんは市民運動の中で信頼関係を築いてきた、まさに出したい候補者だった。結果は共産党の票は倍増したが、今のレベルの市民との野党の共闘ではまだ力が足りないという課題も明らかになった。市民連合として申し合わせを見直し、一斉地方選挙でも統一候補をめざしていく。そのために自力をつけていく」、「木村真さんは自分の選挙以上の力を出した、市民が『出したい候補者』」、「市長選では投票・府議補選では棄権・白票、野党共闘の魅力がもっと市民に広がる地力が必要」など、両氏とも今回の企画に相応しい問題提起、そして「市民と野党共闘」の深化論を語られました。

会場と報告者の活発な意見交換もなかなか有意義でした。「立憲野党とのかかわりで私たちの働きかけはどうであったか。選挙の時だけになっていないか、候補者を育てるというリスペクトの精神が大事、日ごろの関係性を一步一步つちかう」「新しい政権展望は市民連合政策、政策の一致を重ねながら、新しい政権を考える」、「府会は定数88人中、共産党が2人と民進党系1人であり、むちゃむちゃな議会、統一候補つくって府下で共同しあう必要性あるのではないかと発言がありました。6区や1区、2区からの参加者も、市民連合を作り上げていきたいと発言。

山元一英・呼びかけ人はまとめて「国政レベルだけでなく、地方選挙レベルでも統一候補を作る必要性がある、すべての選挙区でネットワークを作り上げる運動の強化」を呼びかけました

賛同団体・地域革新懇の合同会議ご案内

テーマ：全国革新懇総会報告と大阪の運動と組織課題

日時 6月20日（水曜日）午後1時30分より4時まで終了予定

場所 大阪国労会館1階ホール（JR環状線「天満」駅、地下鉄「扇町」駅下車）

課題 *全国革新懇総会報告と大阪の運動と組織課題

*この間の地域革新懇活動の交流（3000万署名・市民アクション・市民連合など）

*賛同団体からの報告や提案など

*機関紙6月号「大阪革新懇だより」は、6月7日（木曜日）に発送いたします。

*「全国革新懇ニュース」6月号は、400号を記念して8ページ建てで6月5日に東京から発送。